

エキソニモ 個展『On Memory』開催のご案内

展覧会名：エキソニモ『On Memory』

会 期：2023年7月6日（木） - 8月6日（日）

オープニングレセプション：7月8日（土）17:00-19:00 *作家が在廊いたします

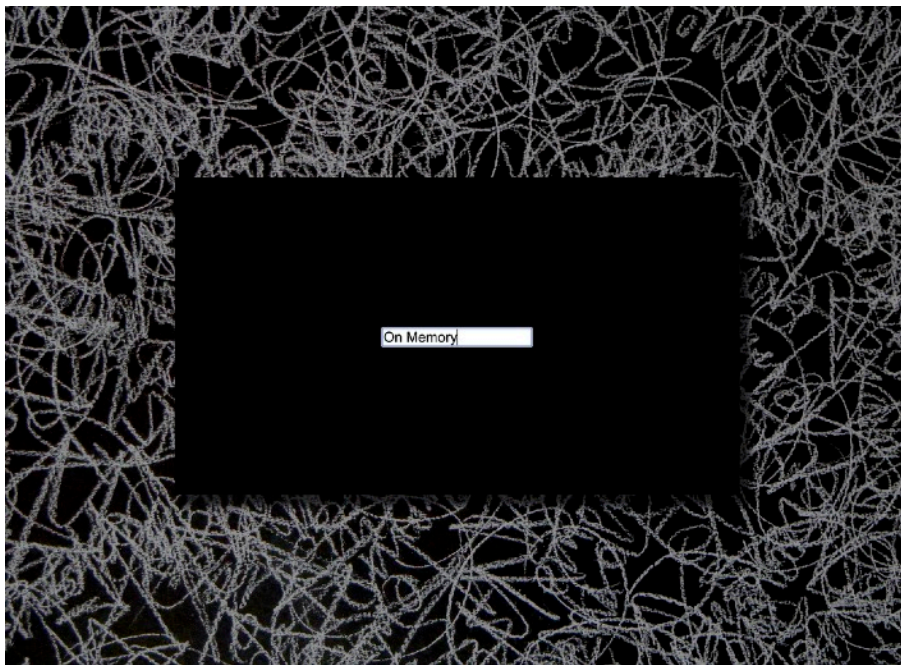
開廊時間：12:00-19:00（日曜 -17:00）

定休日：月・火・祝日

会 場：WAITINGROOM（〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル1F）

WAITINGROOM（東京）では、2023年7月6日（木）から8月6日（日）まで、エキソニモの個展『On Memory』を開催いたします。当ギャラリーでは2年ぶり3回目の個展となる本展は、「記録／記憶」をテーマとした新シリーズを中心に構成されます。本展で発表される新シリーズは、リロードすると消えてしまい、どこにも記録してはいけず＝人間の記憶の中にだけ残る文章という、非常に一時的な条件をもって成立します。あらゆる情報をデジタルデータとして記録することができ、ブロックチェーン技術の登場によりさらにその永続性が高まったとされている現代で、人間の記憶を必須の条件として成立する作品は、デジタルデータや美術作品の永続性、その儚さを、エキソニモ独自のユーモアをもって浮き彫りにするような試みとなります。

本展の開催序盤、エキソニモは3箇所同時に作品を展示いたします。パシフィコ横浜にて7月7日（金）から7月9日（日）まで開催されるアートフェア『Tokyo Gendai』にNowHere（ニューヨーク）から参加するほか、7月8日（土）から7月10日（月）まで、WHAT CAFE & T-LOTUS M（天王洲）にて開催されるアートフェア『CADAN：現代美術』でも作品を展示いたします。この機会にぜひ、3会場をあわせてご高覧いただけましたら幸いです。



《On Memory》2023年、イメージ

作家・エキソニモ (exonemo) について

千房けん輔と赤岩やえによるアートユニット。1996年にインターネット上で活動を開始。2000年から実空間でのインスタレーションやパフォーマンス、イベントオーガナイズ等へ活動を広げ、2015年からはニューヨークを拠点に活動中。2006年、世界的なメディアアート・フェスティバルであるアルス・エレクトロニカのネット・ヴィジョン部門でゴールデン・ニカ賞（大賞）を受賞。2012年には10数名のメンバーと共にIDPW（アイパス）を組織し、「インターネットヤミ市」をはじめとするイベントを国内外で開催。近年の展覧会として、2022年グループ展『GEMINI Laboratory Exhibition』（ANB Tokyo／東京）、『模図かずお大美術展』（東京シティビュー／東京・あべのハルカス美術館／大阪）、2021年個展『CONNECT THE RANDOM DOTS』（WAITINGROOM／東京）、2019年グループ展『あいちトリエンナーレ2019 情の時代』（愛知県美術館／愛知）などが挙げられます。2020年に開催された個展『エキソニモ UN-DEAD-LINK アン・デッド・リンク [インターネットアートへの再接続]』（東京都写真美術館／東京）にて令和2年度（第71回）芸術選奨 美術部門 文部科学大臣新人賞を受賞。2021年には大林財団の助成制度「都市のヴィジョン - Obayashi Foundation Research Program」第3回のアーティストに選出され、本年春にその活動をまとめた記録冊子『Infected Cities』が刊行されました。

アーティスト・ステートメント

もう15年くらい前になるだろうか

嵐の日、隣の家の猫達が風雨にさらされながら重なるようになって寒さを凌いでいた。

お互いの温もりを感じながら、仲間といる安心を感じている、その小さな生き物たちを見ながら、誰も記録などとらない彼らのその時の感情が、宇宙のどこかに保存されているのでは無いかと、ふと想像した。

今回の展示のテーマは「記憶／記録」である。エキソニモが常に作品で扱う”デジタルデータ”は、ブロックチェーンの登場で「永続性」を手に入れたと信じられるようになった。今まで儚い存在だと思われていたデジタルデータが、永遠に消えないものになる（しかし、その真偽はまだ、誰もわからないが…。）

今回発表される、展覧会と同じタイトルの作品「On Memory」は、物質としてのマテリアル、支持体としての電子機器、ブロックチェーンに刻まれるデジタルデータ、そして人間の記憶という、それぞれ存続可能性の違う素材を組み合わされた新作シリーズだ。この、不確かさの上の奇跡的なバランスで成立する作品は、いつまで存在できるのだろうか。もしくはあっという間に記憶から消え去ってしまうのだろうか。あなたの記憶力も作品の一部となる、この新しい試みを体験しにきてください。

エキソニモ



記録媒体としての「人間のメモリー」

ネットワーク世界と現実世界を柔軟に行き来するような活動を行ってきたエキソニモが今回着目したのは、人間の記憶です。

パスワードから思い出の写真に至るまで、身の回りのほとんど全ての情報をデジタルデータとして記録し保存することは、言わずもがな当たり前前の営みになりました。インターネットで検索すれば、世界中の誰かが記した記録物を情報として見つけることも容易です。さらに、中央集権的なデータベースではなく、分散型のシステムをもつブロックチェーンの登場により、デジタルデータの保存性はさらに高まったと言えます。そんな現代でも、人間の記憶の中にしか残らないものは存在し続けています。

本展で発表される新シリーズでは、額装されたモニターの中に、インターネットブラウザの検索バーのような形状が表示され、さらにその中に短い文章が入力されます。この文章は、その日のギャラリーオープン直前にスタッフが入力した文字で、営業時間が終わり、電源を切ると消えてしまいます。この文字列を写真やメモで記録することは禁じられており、スタッフ間の共有は、記憶に基づき口頭伝承のような形で行われます。

このように、エキソニモの新シリーズ『On Memory』は、額縁などのマテリアル、モニターなどの電子機器といった構成要素に加え、永続性をもつと信じられ始めたデジタルデータ、そして人間の記憶が揃うことが、作品の成立条件になっています。人間はいつか確実に死を迎えますが、人間の記憶の中にだけ残された要素を持つ作品は、いつまで「作品」であり続けられるのでしょうか。「記憶／記録」とその永続性をテーマとした本展は、美術作品の最期、ひいては永続性を手に入れたとされているデジタルデータの最期を予感させ、「人間のメモリー」を使わないと残らないものの存在を思い出させるでしょう。

同時開催：アートフェア『Tokyo Gendai』

NowHere（ニューヨーク）から参加いたします。Booth#：T01

ご招待制：7月6日（木）

一般会期：7月7日（金）11:00 - 19:00

7月8日（土）11:00 - 19:00

7月9日（日）11:00 - 17:00

会場：パシフィコ横浜

（〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1）

入場料：前売券 2550円 / 当日券 3400円

ウェブサイト：<https://tokyogendai.com/ja/about/>

Tokyo Gendai



同時開催：アートフェア『CADAN：現代美術』

2021年のグループ展『I am here by WAITINGROOM』を振り返る企画ブースにて作品を展示いたします。

ご招待制：7月7日（金）

一般会期：7月8日（土）13:00 - 20:00

7月9日（日）13:00 - 20:00

7月10日（月）13:00 - 18:00

会場：WHAT CAFE & T-LOTUS M

（〒140-0002 東京都品川区東品川2-1先）

入場料：VIP（ご同伴1名まで可） / 無料招待券 / 一般（500円）

エキソニモ (exonemo)

1996年 千房けん輔と赤岩やえによってインターネット上で活動を開始
2015年よりニューヨークを拠点に活動中

個展

2021
CONNECT THE RANDOM DOTS - WAITINGROOM (東京)

2020
アン・デッド・リンク - 東京都写真美術館 (東京)
Slice of the Universe - Masahiro Maki Gallery (東京)

2019
U & I - NOWHERE (ニューヨーク・アメリカ)
LO - WAITINGROOM (東京)

2018
The Life-Cycle of Interfaces - New Media Artspace gallery,
Baruch College Library 1F-4F (ニューヨーク・アメリカ)

2017
Milk on the Edge - hggrp Gallery (ニューヨーク・アメリカ)

2013
TO THE APES - 三菱地所アルティアム (福岡)

2008
UN-DEAD-LINK - Plug.in (バーゼル・スイス)

2006
WORLD B - 山口情報芸術センター[YCAM] (山口)

2003
new FUNKtion - 広島市現代美術館 (広島)

2000
DISCODER - commandN (東京)

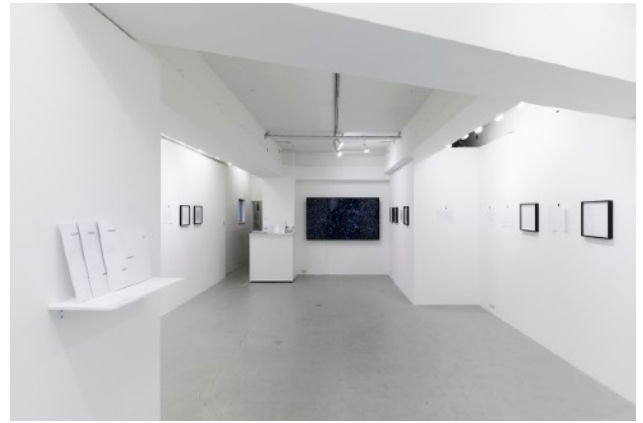
主なグループ展

2023
Proof of X - Blockchain As A New Medium For Art -- THE FACE DAIKANYAMA (東京)

2022
デジタル骨董展—これからの価値と所有を考える— - BE AT STUDIO HARAJUKU
(ラフォーレ原宿6F) (東京)
GEMINI Laboratory Exhibition - ANB Tokyo (東京)
模図かずお大美術展 - 東京シティビュー (六本木ヒルズ森タワー52階) (東京)
/ あべのハルカス美術館 (大阪)
SPRING SHOW - WAITINGROOM (東京)

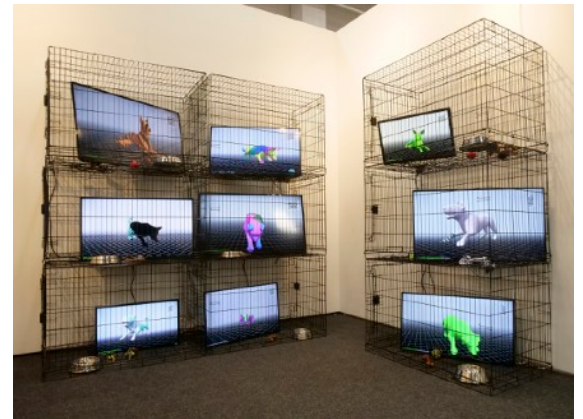
2021
Hybrid by Nature - GOETHE Institute、オンライン
I am here by WAITINGROOM - CADAN有楽町 (東京)

2020
10TH - WAITINGROOM (東京)
恵比寿映像祭 - 東京都写真美術館 (東京)



上下とも：2021年個展『CONNECT THE RANDOM DOTS』展覧会風景
(WAITINGROOM、東京)

Photo by Shintaro Yamanaka (Qsyum!)



《Metaverse Petshop》2022年 展示風景
Supported by NowHere | NFT advisor Toshi / wildmous

主なグループ展（続き）

2019
 来るべき世界 科学技術、AIと人間性 - 青山学院大学 青山キャンパス（東京）
 あいちトリエンナーレ2019 情の時代 - 愛知県美術館（愛知）
 The Invisible Hand - 4A Centre for Contemporary Asian Art（シドニー・オーストラリア）
 Reincarnation of Media Art - WRO Art Center（ワルシャワ・ポーランド）
 TECH ART FOR COLLECTORS - ARTJAWS SPECIAL GUEST EXHIBITION - Zürcher Gallery（ニューヨーク・アメリカ）
 光るグラフィック展 - クリエイションギャラリーG8（東京）
 ARTPORT: SUNRISE/SUNSET - ホイットニー美術館（ニューヨーク・アメリカ）

2018
 Ars Electronica Festival 2018: ERROR - THE ART OF IMPERFECTION - Gallery Space（リンツ・オーストリア）
 Indonesian Netaudio Festival 2018 - Jogja National Museum（ジャカルタ・インドネシア）
 メディアアートの輪廻転生 - 山口情報芸術センター（山口）
 Rhizome Net Art Anthology - Rhizome - New Museum（ニューヨーク・アメリカ）
 オープン・スペース2018 イン・トランジション - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）
 New Japan. Observer Effect - Solyanka State Gallery（モスクワ・ロシア）
 Gradation - hpgpr gallery（ニューヨーク・アメリカ）
 Micro Internet Yami-ichi - NADA Art Fair（ニューヨーク・アメリカ）
 ハロー・ワールド ポスト・ヒューマン時代に向けて - 水戸美術館（茨城）

2017
 Forever Fornever - Rhode Island College, Bannister Gallery（プロビデンス・アメリカ）
 SIGHT+SOUND 2017 - Never Apart（モントリオール・カナダ）
 Ars Electronica in Berlin 2017 - DRIVE. Volkswagen Group Forum（ベルリン・ドイツ）
 World Wide Water - Friday Late x Boiler Room, Victoria and Albert Museum（ロンドン・イギリス）
 CAPRI BY NIGHT - Schauspiel Köln（ケルン・ドイツ）
 NARS Spring Open Studios - NARS Foundation（ニューヨーク・アメリカ）
 Landscapes: New vision through multiple windows directed by exonemo - Japan Creative Centre（シンガポール）

2016
 Spirit and Digit - Electro Museum（モスクワ・ロシア）
 Hybrids: On the borderline between Art and Technology - Onassis Cultural Centre（アテネ・ギリシャ）
 POSTDIGITAL ECOSYSTEMS - Babycastles（ニューヨーク・アメリカ）
 Digital Illusion - Gallery Senne（ブリュッセル・ベルギー）
 DA DA * DA! - ハッキング・アート x ライフ - ゲーテ・インスティトゥート東京（東京）
 Internet Bedroom @Print Screen Festival - Print Screen Festival（ホロン・イスラエル）
 Single channel - Anthology Film Archives（ニューヨーク・アメリカ）
 Internet Yami-ichi in London - Offprint festival, Tate Modern（ロンドン・イギリス）
 オープン・スペース 2016 メディア・コンシャス - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）
 Eco Expanded City - WRO Art Center（ヴロツワフ・ポーランド）

2015
 First Look: Real Live Online - New Museum（ニューヨーク・アメリカ）
 HOLIDAY BRING YOUR OWN BEAMER NYC - REVERSE + BABYCASTLES - Reverse（ニューヨーク・アメリカ）
 Refest - La MaMa（ニューヨーク・アメリカ）
 The Vault - Image, perception, the alchemy of light - ACT Center（光州・韓国）
 Elements of Art and Science - Ars Electronica Center（リンツ・オーストリア）
 Post City - Ars Electronica Festival（リンツ・オーストリア）
 Memory Burn - bitforms gallery（ニューヨーク・アメリカ）
 山口小夜子 - 未来を着る人 - 東京都現代美術館（東京）
 3331 ART FAIR 2015 - 3331 Arts Chiyoda（東京）

2014
 光の洞窟 - kumagusuku（京都）
 CODE:「私たちの時代の言語」展 - グランフロント大阪 北館 ナレッジキャピタル The Lab.（大阪）
 大古事記展 - 奈良県立美術館（奈良）
 BCTION - 四谷の廃ビル（東京）



2022年グループ展『椋図かざお大美術展』展覧会風景
 （東京シティビュー、東京）
 撮影：Ichiro Mishima (Artifact)

主なグループ展（続き）

2014

札幌国際芸術祭 - 札幌駅前通地下歩行空間 [チ・カ・ホ]（北海道）
 Good Morning Mr. Orwell 2014 - Nam June Paik Art Center（龍仁・韓国）
 Art Hack Day Berlin: Afterglow - transmediale（ベルリン・ドイツ）

2013

Better Than Universe - Daegu Media Art ZKM 2013（大邱・韓国）
 Republic of the Two - Arko Art Center（ソウル・韓国）
 Money After Money - EYE OF GYRE（東京）

2012

Media City Seoul - Seoul Museum of Art（ソウル・韓国）
 第4回 恵比寿映像祭「映像のフィジカル」 - 東京都写真美術館（東京）
 [インターネット アート これから+] - ポスト・インターネットのリアリティ
 - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

2011

世界制作の方法 - 国立国際美術館（大阪）
 YCAM LabACT vol.1 "The EyeWriter" - 山口情報芸術センター（山口）
 Little Tokyo Design Week 2011 - Little Tokyo City（ロサンゼルス・アメリカ）

2010

みえないちから - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）
 Random Access - Nam June Paik Art Center（ソウル・韓国）
 文化庁メディア芸術祭協賛事業「サイバーアーツジャパン-アルスエレクトロニカの30年」 - 東京都現代美術館（東京）
 可能世界空間論—空間の表象の探索、のいくつか - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

2009

《ゴットは、存在する。》オープン・スペース 2009 - NTT インターコミュニケーション・センター（東京）
 eARTS BEYOND - Oriental Pearl TV Tower（上海・中国）
 CODED CULTURES - The frei_raum Q21（ウィーン・オーストリア）
 Between Site & Space - ARTSPACE（シドニー・オーストラリア）

2008

YUDA ART PROJECT - 湯田温泉地区/山口情報芸術センター（山口）
 都市のディオラマ: Between Site & Space - トーキョーワンダーサイト渋谷（東京）
 LISTE 08 -The Young Art Fair（バーゼル・スイス）
 SYNTHETIC TIMES - National Art Museum of China（北京・中国）

2007

Beautiful New World, Long March Space/Inter Art Center/Guangdong Museum of Art（北京、広州・中国）
 ポケットフィルム・フェスティバル2009 - 東京藝術大学大学院映像研究科横浜校地馬車道校舎（神奈川）
 青葉緑日 2 - せんだいメディアテーク（宮城）
 My Own Private Reality - Edith Russ Site for Media Art（オルデンブルク・ドイツ）
 L'Expérience Japonaise - Le Haut-parleur culturel à Marseille [WAAW]（ニーム・フランス）
 オープン・スペース 2007 - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）
 DEAF07: Interact or Die! - Las Palmas（ロッテルダム・オランダ）
 Lab*Motion - トーキョーワンダーサイト本郷（東京）

2006

コネクティング・ワールド：創造的コミュニケーションに向けて - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）
 CyberArts 2006 - O.K. Centrum（リンツ・オーストリア）
 Cyberlounge - Museo Tamayo（メキシコシティ・メキシコ）
 オープン・スペース - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）
 AIT HOUR MUSEUM - パナソニックセンター東京（東京）
 KANDADA - command N KANDADA（東京）



2020年個展『アン・デッド・リンク』展覧会風景
 （東京都写真美術館、東京）
 Photo by Ryuichi Maruo

主なグループ展（続き）

2005

MobLab - 情報科学芸術大学院大学/NTT インターコミュニケーション・センター/せんだいメディアテーク/彩都IMI大学院スクール/山口情報芸術センター（岐阜・東京・宮城・大阪・山口）ほか

Rock the Future - FACT（リバプール・イギリス）

Jakarta Video Festival 2005（ジャカルタ・インドネシア）

Beijing International New Media Arts Exhibition - China Millennium Museum（北京・中国）

愛・地球博（愛知）

アート・ミーツ・メディア：知覚の冒険 - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

2004

SonarSound Extra - 恵比寿ガーデンプレイス（東京）

Nam June Paik Award 2004 - Phoenixhalle（ドルトムント・ドイツ）

リアクティビティ-反応=再生する可能性 - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

Tokyo Style in Stockholm - Beckmans School of Design（ストックホルム・スウェーデン）

Navigator - National Taiwan Museum of Fine Arts（台中・台湾）

ネクスト：メディア・アートの新時代 - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

Mediarena: contemporary art from Japan - Govett-Brewster Art Gallery（ニュープリマス・ニュージーランド）

六本木クロッシング：日本美術の新しい展望 2004 - 森美術館（東京）

2003

メディア・ソケツ 多層なる創造圏 - 山口情報芸術センター（山口）

2002

AIT HOUR MUSEUM 2002 - 旧桜川小学校体育館（東京）

アート.ピット コレクション展 - NTTインターコミュニケーション・センター（東京）

program - アサヒ・アート・フェスティバル2002（東京）

Akihabara TV3 - command N（東京）

2001

Istanbul Biennial - The Imperial Mint（イスタンブール・トルコ）

EXPO KOBE 2001 - ポートアイランド（兵庫）

BUZZ CLUB: news from Japan - MoMA PS1（ニューヨーク・アメリカ）

メッセージ/ことばの扉をひらく展示2「記憶の扉」 - せんだいメディアテーク（宮城）

2000

mediaselect 2000 - 名古屋港ガーデンふ頭（愛知）

Ars Electronica Festival 2000 - Ars Electronica Center（リンツ・オーストリア）

TECH.POP.JAPAN - International Film Festival Rotterdam（ロッテルダム・オランダ）

アワード

2021年 令和2年度（第71回）芸術選奨選出 文部科学大臣新人賞受賞

2021年度 大林財団 制作助成制度「都市のヴィジョン - Obayashi Foundation Research Program」

2016年 平成27年度 吉野石膏美術振興財団 美術に関する国際交流の助成（ニューヨーク・アメリカ）

2015年 平成27年度 文化庁新進芸術家海外研修（ニューヨーク・アメリカ）

2010年 東京TDC賞2010 RGB賞

2006年 アルス・エレクトロニカ ネット・ヴィジョン部門 ゴールデン・ニカ賞

2000年 アルス・エレクトロニカ .Net部門 Honorary Mention（栄誉賞）

1997年 Javaグランプリ 大賞受賞

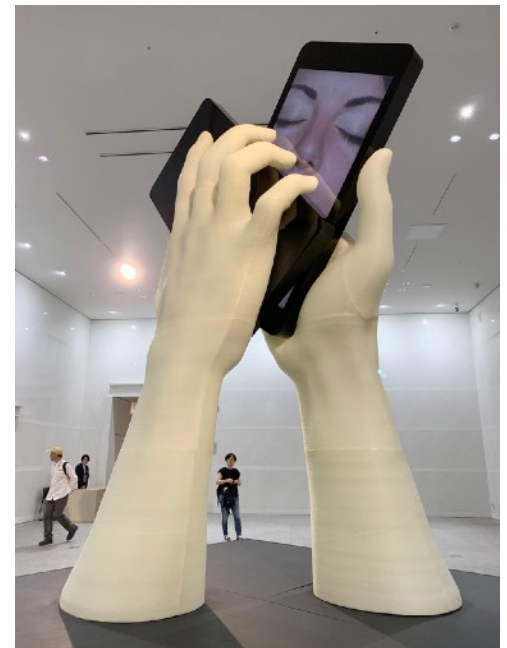
パブリックコレクション

東京都写真美術館

Google Inc.

大林財団

タグチ・アートコレクション

アーティストウェブサイト<http://exonemo.com>

《The Kiss》2019年 展示風景
あいちトリエンナーレ2019（愛知県美術館、愛知）

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

WAITINGROOM（代表：芦川朋子）

住所：〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F

営業時間：水木金土 12-19時・日 12-17時

定休日：月火祝

Tel：03-6304-1877 Eメール：info@waitingroom.jp

Web：http://waitingroom.jp